

—学校教育目標—

豊かな心をもち

自ら学ぶたくましい子

- (1)よく考えねばり強く学ぶ子
- (2)心豊かで思いやりのある子
- (3)すすんで体をきたえる元気な子

学校便り

第20号

仲井真っ子

H30年6月14日(木)

那覇市立

仲井真小学校

発行責任者

校長 宮里 寧

TEL 917-3330

沖縄戦を学ぼう

仲井真小から平和の歌を届けたい声をそろえて！

沖縄戦から73年。20万人を超える人々が亡くなった沖縄戦がありました。過酷な歴史が刻まれた沖縄の今を生きる私たち。なぜ沖縄で戦争があったのか、どうしてこれほど多くの人々が命を落としたのか。今年も慰霊の日がやってきます。6月23日は沖縄戦でなくなった人をいたむ日です。6月1日(金)から6月29日(金)は、平和月間です。児童玄関には、「沖縄戦のパネル展」、図書館内では「沖縄戦に関する図書」や「慰霊の日に向けてのコーナー」があります。戦争と平和を考える、自分のこととして考えてみる機会を設けてます。その取組の一貫で、6月13日(水)体育館にて、平和集会が行われました。全体朝会で、6年生が「沖縄から平和のうたを」という曲を歌と群読で届けてくれました。とても心に響きました。

1校時は、講師に「崎原真弓(さきはらまゆみ)」さんをお招きしました。崎原さんは、沖縄の歴史を伝える語り部として県内外でスーパーガイドの異名を持つバスガイドさんです。2年前から予約が入るほどの人気ぶりで三線演奏、芝居、さらには舞踊を交えながらの演出は、聞き手の「感動」と「笑い」そして「涙」を誘っています。若手ガイドの育成をはじめ、沖縄県内の子どもたちへの歴史伝承など次代へ繋がる活動も勢力的に行っています。



崎原さんは、はじめに沖縄で昔から伝えられてきた教えや教訓である「黄金言葉(くがにくとうば)」をいくつか紹介しました。「命(ぬち)どう宝」、命こそが尊い一番大事な宝である。「いちやりば兄弟(ちょおでえ)」、一度出会えば兄弟のようなもの。「うとうすいや宝」お年寄り宝です。そして、三線演奏を交えて「ていんさぐの花」を歌いながら目には見えない沖縄の「肝心(ちむごころ)」に触れた後、戦争で犠牲になった方々に1分間の祈りを捧げましょと、黙祷をしました。目を静かに開けると、「おばあ」が仲井真っ子に優しく語り始めています。当時、残酷な目にあった、悲しい思いをした「おばあ」です。おばあになった崎原さんの芝居と語りに子どもたちは涙したり、うなずいたり、考え込んだ表情で聞いていました。自分なりに戦争の醜さや恐ろしさ、悲惨さなどを感じ、考えている様子が伺えました。お話の後は、感謝の気持ちと平和の願いを込めて、全校児童で「月桃の花」を歌いました。最後に、仲井真小学校を代表して6年生の「赤嶺美涼(あかみねみず)」さんが、講師の先生にお礼と感謝の言葉を述べました。「おばあ」の語りを聞いた気持ちを美涼さんなりの言葉で述べていました。

来週は慰霊の日があります。沖縄から平和のうたを届けたい声をそろえて・・・。

